

加古川市健やか親子21(第2次)計画(案)に関するパブリックコメント ご意見の内容及び市の考え方

No	該当項目	ページ	ご意見等の内容	市の考え方	修正
1	基本目標②	24	「行政・関係機関の取り組み ①児童生徒への思春期・健康教育の充実」の項目について 中高生の飲酒・喫煙の問題は心配ですが、それ以上に今の時代「薬物乱用」(大麻・危険ドラッグ等)が心配です。市としての取り組みが必要ではないでしょうか。	薬物乱用防止について、国は「健やか親子 21 第1次計画」の最終評価において「改善した」ため、第2次計画では指標から外しました。本市計画においても「改善した」ため、国と同様としました。 思春期にタバコ、お酒に手を出すと生活習慣化し、薬物乱用に発展しやすくなります。その入り口に立たないために、まず、タバコ、お酒への行動を予防することを計画にとりあげました。薬物乱用防止については、加古川市青少年問題協議会を通じて、教育委員会や警察、その他の地域団体と連携して取り組んでいきます。	無
2	重点目標	33	「行政・関係機関の取り組み ①相談先の周知」の項目について 加古川市健やか親子21の最終評価では子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減で包括的な子育て支援体制が必要と記載されており、また、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のなかでも子育て世代包括支援センターの設置が検討されるとのことですが、厚生労働省発表では、5年以内に全国に展開することを目指しており、記載が必要ではないか。	子育て世代包括支援センターはご指摘の箇所だけではなく、計画全体の取り組みの中で関わってきますので、38 ページ 「(1)計画の推進体制」について、全面的に修正することとします。 (修正後) 現代社会の家族・地域社会の変容等に伴う、市民ニーズの多様化、必要な支援の複雑化に対応するため、すべての人が世代や背景を問わず、安心して暮らし続けられるまちづくりが求められています。こうした動向を踏まえ、かつ本市における「健やか親子21計画」の更なる推進の観点から、母子保健サービスについても、妊娠期から子育て期にわたる様々な相談に対し、総合的な窓口機能を担うワンストップ拠点として、「子育て世代包括支援センター」を設置します。 この「子育て世代包括支援センター」では、そこに配置される母子保健コーディネーターが中心となり、保健師等の専門的知見と当事者目線の両方の視点を活かしながら、きめ細かな利用者支援の仕組みを構築します。そ	有

No	該当項目	ページ	ご意見等の内容	市の考え方	修正
				のために、妊産婦等の個別ニーズを早期に把握したうえで、必要なサービスが円滑に利用できるよう支援を行います。 また同時に、こうした利用者支援体制と車の両輪である、学校や医療機関等母子保健サービスに関連する様々な関係機関とのネットワーク構築を進めていくなかで、妊娠期から子育て期までの切れ目のないきめ細やかな支援を行っていきます。 なお、本計画は、本市の中長期的な母子保健施策全般に関する指針となるものであり、計画に含まれる分野は、保健・医療・福祉・教育など広範囲にわたっていることから、実効ある体制づくりには、関連する分野の整合性を図りつつ、相互補完的に進めていきます。	
3	重点目標	33	「行政・関係機関の取り組み ③母子保健事業での児童虐待予防対策」の項目について ◆◆妊娠届出書の下「妊娠・出産・育児期を通じて継続して支援する」のところで、妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援として「日本版ネウボラ」が関東を中心に全国にも広まっています。また、厚生労働省は、平成27年度に「妊娠・出産包括支援モデル事業」を実施しており、今後、拡充していっていますので、切れ目のない支援が必要だと思われますので、より切れ目のない支援等と記載変更できないか。	次のとおり、文章を一部修正することとします。 （修正前） ◆◆妊娠届出書・妊娠連絡票等から妊婦のリスクマネジメントを行い、ハイリスク妊婦について、妊娠・出産・育児期を通じて<u>継続して支援します。</u> （修正後） ◆◆妊娠届出書・妊娠連絡票等から妊婦のリスクマネジメントを行い、ハイリスク妊婦について、妊娠・出産・育児期を通じて<u>切れ目なく支援します。</u>	有